

第三部 定時制

本校の教育目標と閉課程にあたって

定時制副校長 能本信行

本校の校訓は「自主」・「誠実」・「明朗」を基本理念とし、定時制の教育目標は、「公共心及び社会的規範意識の育成」「社会人としての広い視野に立ち、心豊かな人間の育成」「働きながら学ぶ生徒としての自覚を高める」の三つを目標に上げています。

最近、人と人との触れ合いが希薄になり、公共心や人としての優しさの大切さがあちこちで言われています。生徒が大人として成長していくうえで、生涯にわたって持ち続けて行つてほしい理念や目標であるとの考えにより、教職員一同生徒指導にあたってきました。

教科指導では基礎学力の充実に重点を置いています。生徒の能力や興味に応じた授業を行い、生徒のもっている可能性を十分引き出す指導を行っています。生活習慣が確立していない生徒や集団生活がうまくできない生徒もいます。教職員が常にきめ細かく対応し社会に主体的に取り組める基礎的資質を養うことを目標としています。

生活面では学校生活を通して、自己責任の自覚の育成や公共心・社会的規範意識の涵養を図り、自主・自立の意識を高めると共に、人間尊重の心を育てる事を目標としています。生徒は自分自身をなかなか良い方に評価しません。生徒にはもつと自分を大切にしてほしいと言っています。自分を見つめ高めることにより、他人への優しさ、思いやりの心が育つていくものと考えます。

進路指導では、生徒が希望する進路実現に向け取り組んできました。生徒の中には、卒業後の生活そのものが指導の重点になる事もありましたが、近年では大学への希望生徒も多くなり、毎日職員室で生徒が、教員の指導を受けている姿が目立つようになりました。

私は、平成十四年から平成二十年三月の閉課程まで六年間定時制課程の副校長として勤務させていただきました。私が着任してすぐに定時制課程が都立高校改革推進計画により閉課程になることが決まり、

それから六年、とうとうその日を迎えることとなりました。

私が着任したころは、六十歳台の御年配の生徒から、十六歳の新入生まで、六十数名の生徒が在籍しており、かなり賑やかな様子の学校でありました。

私は、定時制課程の経験が講師としてでしかありませんでしたが、教職員や生徒と六年間を共に送ることができ、良い経験ができたと同様にとても嬉しく思っています。

学校では、休み時間ごとに生徒が職員室にやってきて「副校長先生」と声をかけてきます。何気ない会話の中にも、生徒の様子が分かり生徒の顔を見るのが楽しみになっていました。欠席の多い生徒には、担任の先生が必ず電話を入れ、熱心に指導してきたおかげで、退学する生徒も少なくなり、生徒も落ち着いた雰囲気のある学校生活でした。

同窓会に参加する機会があり、一期生の方や多くの同窓生からお話を伺うことができました。一期生の演劇発表のことや当時の仲間たちのこと、卒業後もクラス会を何年も続けておられたことなど懐かしそうにお話をされました。お話の中で昭和三十年当時は、看護師の方や企業で働く生徒など大半の生徒が仕事についており、生徒数も六百人位在籍し、大変活動的であったそうです。

また、同窓生から頂いたお便りには、「生徒出征を経験された仲間のことや、人生心の中でそれぞれ「大変」と一口では言えず色々な想いがあったこと、その様な中でも学校が心休まる暖かい場所となりました。」と書かれていました。そして、当時の向丘高文化部発行の「部報」を同封していただきました。とても、貴重な物ですので、これからも大切に保管していきたいと思っています。

向丘高校の定時制課程は、閉課程となりますが、教職員や卒業生が本校で学んだこと体験したことは、これからも一人一人の胸の中にいつまでも生き続けることだと思います。

卒業生、職員の皆様、本校にかかわった多くの方々から敬意と感謝の意を表します。

定時制沿革

『創立から 10 年目まで』

〔昭和 23 年 (1948)〕

4 月 1 日 都立向丘高等女学校と都立本郷女子商業学校とが統合して都立向丘本郷新制高等学校が開校

学制改革により昭和 22 年 3 月 31 日設立の都立本郷実業専修学校が都立向丘本郷高等学校定時制となる

4 月 26 日 定時制高等学校として新聞発表

5 月 21 日 入学試験

6 月 8 日 入学式

〔昭和 24 年 (1949)〕

3 月 6 日 第一回卒業式挙行

普通科 136 名・商業科 8 名・被服科 14 名卒業

5 月 20 日 定時制高等学校として新聞発表

7 月 30 日 入学試験

10 月 16 日 入学式

11 月 5・6 日 文化祭実施

〔昭和 25 年 (1950)〕

1 月 28 日 都立向丘高等学校と校名変更

〔昭和 26 年 (1951)〕

7 月 7 日 第 1 期増築校舎落成記念式挙行 (木造二階建スレート瓦葺)

8 月 グランド南側へ校地拡張

〔昭和 28 年 (1953)〕

1 月 31 日 運動場整地工事終了

7 月 4 日 第 2 期増築校舎落成記念式挙行 (木造平屋建スレート瓦葺)

9 月 29 日 二期制となる

〔昭和 29 年 (1954)〕

2 月 3 日 校旗ができる

〔昭和 30 年 (1955)〕

9 月 27 日 第 3 期増築校舎落成記念式挙行 (木造二階建スレート瓦葺)

11 月 6 日 文化祭全日制と合同で開催

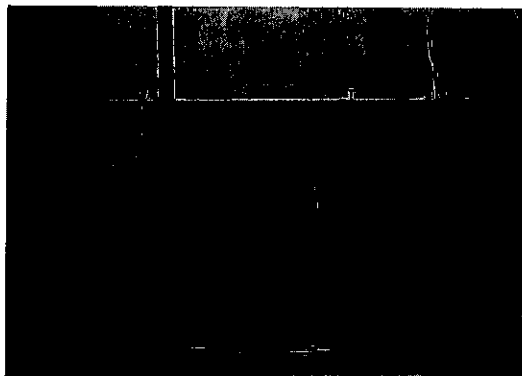
〔昭和 31 年 (1956)〕

倉庫・問衛所・若竹寮が PTA より寄付される

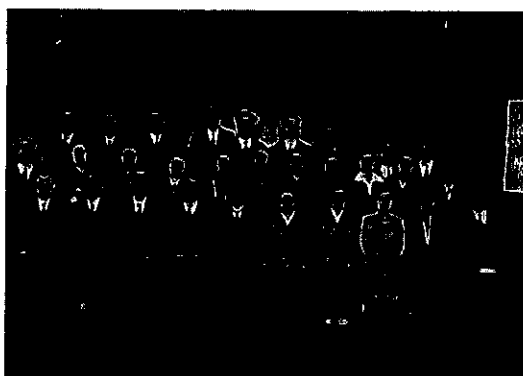
〔昭和 33 年 (1958)〕

1 月 25 日 給食施設落成火入式 (木造平屋モルタル塗セメント瓦葺)

11 月 8 日 第 10 回文化祭全・定共催



▲昭和33年 当時校舎



▲昭和24年 卒業式

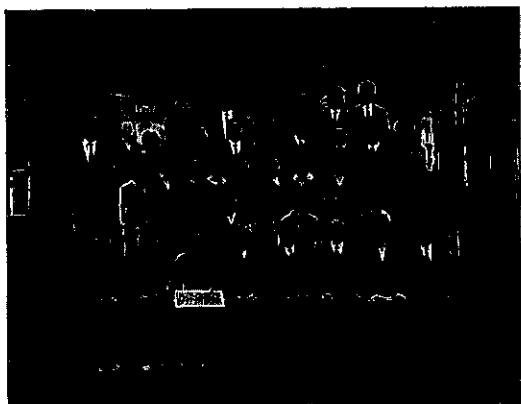
『11 年目から 20 年目まで』

〔昭和 34 年 (1959)〕

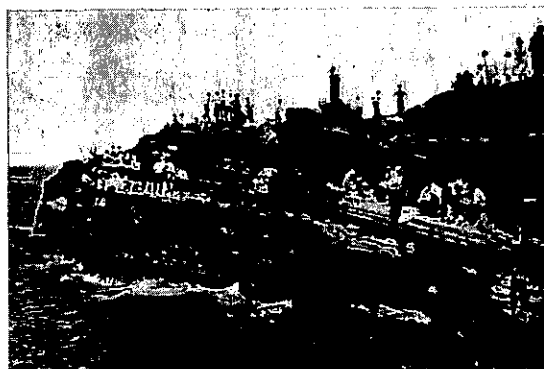
8 月 18 日 体育館兼講堂竣工 (1 階 851.8 m²・2 階 220.6 m²鉄筋コンクリート造)

11 月 10 日 体育館兼行動落成式

- [昭和 35 年 (1960)]
 5 月 26 日 修学旅行団関西方面へ出発
 11 月 11 ~ 12 日 第 11 回文化祭全・定共催
- [昭和 36 年 (1961)]
 5 月 27 日 中央校舎 (2 号館 1293.6 m²) 取り壊し終了 (昭 23 年度建築校舎)
- [昭和 37 年 (1962)]
 8 月 8 日 中央校舎残存部分取り壊し終了 (昭 23 年度建築校舎)
 11 月 7 日 中央校舎増改築第 1 期工事竣工 (1407.1 m²鉄筋コンクリート造)
- [昭和 38 年 (1963)]
 3 月 30 日 中央校舎増改築第 2 期工事竣工 (938.9 m²鉄筋コンクリート造)
- [昭和 39 年 (1964)]
 3 月 31 日 中央校舎増改築第 3 期工事竣工 (822.1 m²鉄筋コンクリート造)
 4 月 27 日 中央校舎屋上に天体観測室 (18 m²鉄筋造 PTA より寄付)
 8 月 1 日 所在地表示変更により東京都文京区向丘 1 丁目 11 番 18 号となる
 11 月 6 日 第 4 学区定時制演劇コンクール開催 (於本校体育館)
- [昭和 40 年 (1965)]
 3 月 31 日 南校舎 (1 号館) 新築 (1019.3 m²鉄筋コンクリート造)
- [昭和 42 年 (1967)]
 3 月 1 日 生徒会部室新築 (鉄筋 2 階建)
- [昭和 42 年 (1967)]
 3 月 31 日 1 号館増築 (定時制職員室・保健室・用務員室等)
 9 月 22 日 創立 20 周年記念式典挙行



▲昭和35年 卒業式



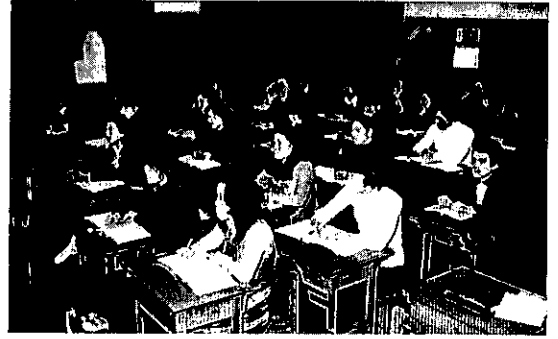
▲昭和41年 課外授業

『21 年目から 30 年目まで』

- [昭和 43 年 (1968)]
 3 月 10 日 第 20 回卒業式
 4 月 22 日 1 号館 4 階増築竣工 (生物室)
 5 月 30 日 屋外照明設備引継
- [昭和 44 年 (1969)]
 2 月 28 日 1 号館 4 階増築竣工 (図書室)
- [昭和 45 年 (1970)]
 3 月 19 日 第 22 回卒業式被服科最後の卒業証書授与式 (4 人)
 12 月 19 日 問衛所取り壊し
- [昭和 46 年 (1971)]
 4 月 26 日 運動場整備、中庭・前庭整地舗装完成
- [昭和 50 年 (1975)]
 4 月 1 日 1 号館冷暖房工事竣工
- [昭和 52 年 (1977)]
 9 月 30 日 新 3 号館竣工
 10 月 7 日 創立 30 周年記念式典・新 3 号館落成記念式典挙行



▲昭和47年 当時校舎



▲昭和47年 授業風景

『31年目から40年目まで』

〔昭和57年(1982)〕

- 1月31日 体育館落成
- 11月20日 旧体育館解体工事終了

〔昭和58年(1983)〕

- 3月31日 テニスコート完成・校庭整備完了

〔昭和61年(1986)〕

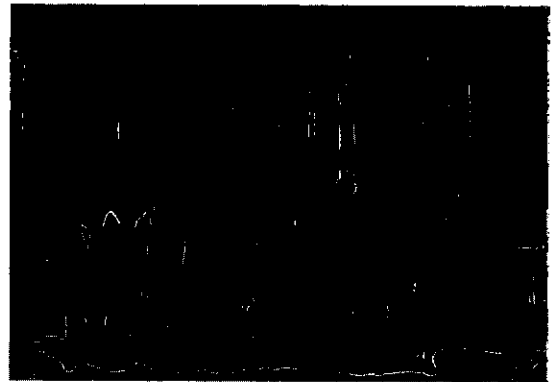
- 8月22日 ブロック塀解体、フェンス新設・緑化工事竣工

〔昭和62年(1987)〕

- 2月16日 グランド照明改修工事竣工及び植樹
- 11月7日 創立40周年記念式典挙行



▲昭和59年度 卒業式



▲昭和58年 修学旅行(広島)

『41年目から50年目まで』

〔平成4年(1992)〕

- 4月1日 LL 教室竣工

〔平成5年(1993)〕

- 4月1日 商業科募集停止

〔平成6年(1994)〕

- 9月1日 校舎改築のため仮校舎に移動

〔平成7年(1995)〕

- 2月8日 旧1号館、2号館解体工事終了

- 3月7日 埋蔵文化財発掘調査着手(9月30日まで)

- 9月27日 新校舎改築工事着工

〔平成8年(1996)〕

- 3月31日 商業科廃止

〔平成 9 年 (1996)〕

4 月 1 日 学校週五日制への移行 (第二・第四土曜日が休業日となる)

7 月 9 日 体育館改修工事着工

〔平成 10 年 (1998)〕

1 月 30 日 新校舎改修工事竣工

2 月 16 日 新校舎へ移動

10 月 10 日 創立 50 周年記念式典・新校舎落成記念式典挙



▲平成 7 年度 商業最後の卒業式



▲平成 5 年度 修学旅行 (北海道)

『51 年目から現在まで』

〔平成 11 年 (1999)〕

2 月 17 日 外溝グラウンド整備工事着工

〔平成 14 年 (2002)〕

9 月 28 ~ 29 日 文化祭全日制と合同で開催

〔平成 17 年 (2005)〕

4 月 1 日 普通科募集停止

〔平成 18 年 (2006)〕

11 月 19 日 体育館屋根石綿除去工事着工

〔平成 19 年 (2007)〕

2 月 12 日 体育館屋根石綿除去工事竣工

11 月 10 日 創立 60 周年記念式典挙

〔平成 20 年 (2007)〕

3 月 2 日 第 60 回卒業証書授与式・閉課程式典



▲平成 17 年度 卒業式



▲平成 16 年度 入学式

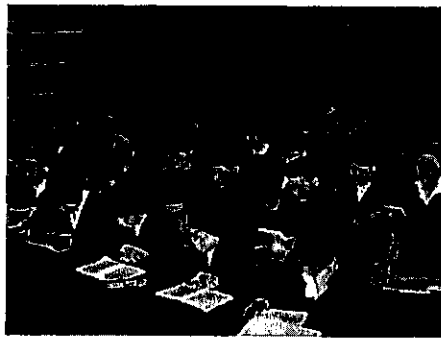
教育課程と授業風景

定時制における教育課程の変遷と授業風景を、現存する学校要覧、周年記念誌、及び卒業アルバムから追う。
 定時制の変動期を当時のカリキュラムや資料をもとに振り返り、また当時の様子を類推したい。なお学習指導要領の改訂は昭和二十二年の試案から平成十五年の現行改訂まで六回行われている。

資料1. 昭和33年度 教育課程表

教科科目	学年	1学年				2学年				3学年				4学年				
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
国語	甲	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
社会	乙																	
数学	漢文																	
理科	社会史	3	3	3	3													
理科	本邦史					5	5	3	3						5	3	3	3
理科	世界史																	
理科	地理																	
理科	数学I	6	6	6	6	3	3			5								
理科	数学II									3	3							
理科	数学III																	
理科	物理																	
理科	化学					3	3	3	3									
理科	生物	3	3	3	3					2								
保健体育	保健体育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
音楽	音楽					2	2	2	2									
美術	美術																	
外国語	英語	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	3	3	2
小計		20	20	20	20	20	20	14	14	18	18	9	9	18	22	10	9	
選択	社会・家庭・生活					2	2											
選択	化学・工業									2	2							
選択	商業											3						
選択	商業												2					
選択	商業													4				
選択	商業														3			
選択	商業															2		
選択	商業																4	
選択	商業	2	2	2	2			2				2						2
選択	商業									4								1
選択	商業													5				
選択	商業														4			
選択	商業																	2
選択	商業																	9
小計		2	2	2	2	2	2	8	8	4	4	13	13	4	0	12	13	
特別教育活動		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24

▲資料1



▲昭和34年 授業風景

▼資料2

資料2. 昭和33年度 学校概要

生徒		1年		2年		3年		4年		全学年							
		普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科	普通科	商業科	被服科				
定数		100	50	30	100	50	30	100	50	10	90	40	20	390	190	90	
在籍		120	51	16	103	48	13	105	45	17	88	34	19	416	178	65	
休学																	
卒業生		普通科		商業科		被服科		合計		普通科		商業科		被服科		合計	
	昭和23	128	10	138	6	2	8	14	134	26							160
	昭和24	141	12	153	55	21	76	10	196	43							239
	昭和25	99	33	132	23	4	27	11	122	48							170
	昭和26	72	21	93	18	2	20	5	90	28							118
	昭和27	38	26	64	20	2	22	22	58	50							108
	昭和28	65	49	114	13	4	17	22	78	75							153
	昭和29	49	39	88	17	15	32	29	66	83							149
	昭和30	42	44	86	22	23	45	22	64	89							153
	昭和31	45	47	92	24	10	34	8	69	65							134
昭和32	38	58	96	20	7	27	11	58	76							134	
計		717	339	1056	218	90	308	154	935	583						1518	

開設当初、学級編成や生徒の定数は流動的であった。資料2は、昭和三十三年度の生徒数と卒業生の推移である（昭和三十三年学校要覧より）。これによると普通科が三クラスであったり、一クラスの生徒数が七十名以上であったりしている。開設当初の教育課程表は残念ながら現存していない。
 資料1は、昭和三十三年度の教育課程表である。普通科、商業科、被服科の三つの科がおかれており、普通科には社会科に重点をおくコースと、理数科に重点をおくコースが設けられていた。当時は二期制を取り入れており、教科の学習は午後五時三十分から九時十分まで、毎週二十二時間行われ、このほかに特別教育活動に二時間をあてている。生徒総数六五九名、教職員四十二名の大所帯であった。部活動も二十三あり、クラブ活動も活発であった。
 このときの就職率は九十三％である。

昭和四一年度に被服科が募集停止となる。その後、定時制に入学する生徒数は急激に減り、募集定数に対し半数程度になった。昭和四十八年度より募集定数が一クラス三十人となった。

昭和四十九年度に教育課程が改訂された。このときの編成は普通科二クラス、商業科一クラスである。この改訂で自由選択一単位が置かれた。この時代からさかのぼって十年くらい女子が全体の三分の二を占め、特に、准看の仕事に従事していた生徒が全体の半分であった。卒業後の正看護学校受験を目指してよく勉強したであろうと想像される。生徒数が減ったとはいえ、目的意識をもって学習していた。



▲昭和43年 給食



▲昭和44年度 被服科最後の卒業式



▲昭和41年 運動会



▲昭和47年 体育の授業



▲昭和51年 授業風景



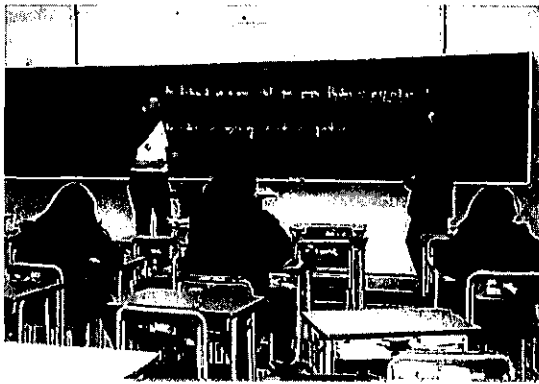
▲昭和55年 校外授業（由比ヶ浜）

これ以降の時代から全日制の補完機関としての役割が高くなった。その後、生徒が急激に減少し、平成五年度は商業科が募集停止となり、平成九年度から普通科のみの単学級校となった。以降、生徒の状況は多様になりアルバイトもしくは無職の生徒が多数となった。定職に就いている生徒は数人程度になった。昭和三十年代と比

昭和五十五年前後に高校の増設が続き、また、准看の卒業生を三年に編入させられなくなり、生徒の状況は一変した。本校でも在校生の七・八割が私立、都立の全日制の前歴があり、ほとんどが東京都出身者になった。また仕事もアルバイトが定職を上回った。第四次の教育課程の改訂により自由選択の一単位がなくなっている。



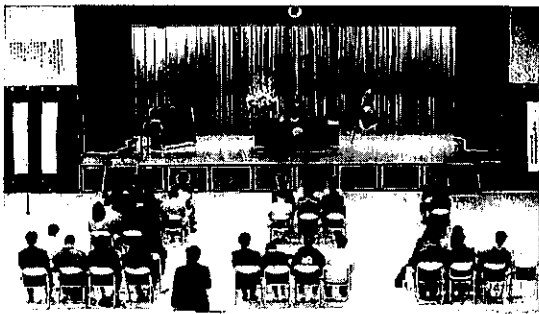
▲昭和51年 職場訪問



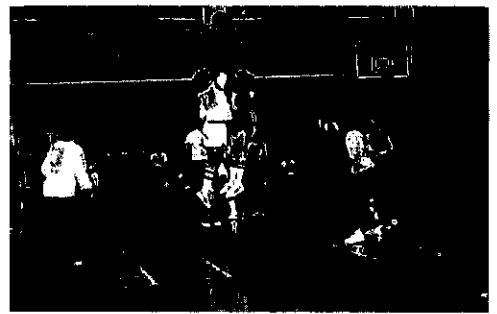
▲平成6年 英語の授業(外国人講師)

較すれば随分寂しくなってしまったが、少人数ならではのアットホームな授業を生かし、芸術・食物・商業などの実技教科を増やすなど多様な生徒に細やかな対応や、進学指導にも力を入れ、大学等の進学希望者も少数ではあるが増加してきた。

平成十一年度に現在の三学期制に変わった。平成十四年度からは生徒の希望もあり再び全日制と共催の文化祭を行えるようになった。毎年生徒が主体となり創意工夫して模擬店を行っている。

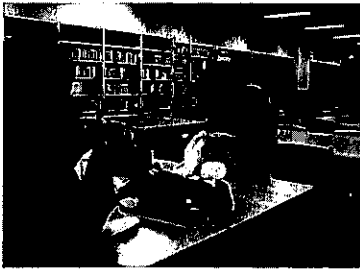


▲平成7年 卒業式



▲昭和59年 球技大会

▼平成18年
総合学習の時間(手芸)



▼平成17年
総合学習の時間(三線)



平成十五年度に教育課程が改訂され、情報や総合的な学習の時間が導入され、本校でも総合的な学習の時間に情報・基礎体力・伝統諸芸・合唱等の四テーマを設置し生徒に取り組ませる。

平成十六年度に定時制最後の新入生が入学、以後卒業生を出すたびに学年が減っていった。それでも種々の行事を縮小することなく、活気ある学校を維持できるよう努めてきた。

▼平成17年 ボランティアの日



▼平成13年 数学の授業





▲平成19年 体育の授業



▲平成19年 調理実習

開課程となる本年度の生徒数は十六名。選択授業の教室の移動時には何の音も聞こえない、生徒も教師も寂しい限りである。現在、専任がいる教科は三教科のみとなる。年々進学希望者が増え、進学希望の生徒へは、担当教科を超えて対応することが多くなった。(資料3は本年度の教育課程表である。)

教員と生徒数が少なくなったが、生徒と教師の距離は近く、率直に意見を交わし様々な話をしていく。放課後の職員室では、生徒が集まり他愛ない話から真面目な話まで、時間を共有し合っている。

生徒にも最後の卒業生という自覚があり、いろいろな行事にもその意識が現れているように思える。クラスにも一体感があり安定している。それぞれの目標進路を実現し、向丘生として誇らしい顔で堂々と卒業していった欲しいというのが教職員の願いである。

(文責 教務部 皆川 優美)



▲平成18年 理科の実験



▲平成18年 スポーツ大会

資料3 平成19年度 教育課程表

教科	単元	標準時数			
		必修	選択	総合	その他
国語	現代文	20	20		
国語	古典			20	20
英語	基礎			20	20
英語	発展		20		
数学	基礎	20	20		
数学	発展			20	20
理科	基礎	20	20		
理科	発展			20	20
総合	基礎	20	20	20	20
総合	発展			20	20
体育	基礎	20	20		
体育	発展			20	20
音楽	基礎	20	20		
音楽	発展			20	20
美術	基礎	20	20		
美術	発展			20	20
外国語	基礎	20	20		
外国語	発展			20	20
職業	基礎	20	20		
職業	発展			20	20
合計		18	16	18	18
合計		18	16	20	18

▲資料3

自分の体は自分で守ろう
く給食を通して

都立上野高等学校 栄養士 竹内 健二

都立高等学校定時制課程は統合を進めており、給食も平成十三年
から、それまでの単独校方式から、複数校分をまとめて一つの学校で
調理し、他学校へ配送するグループ方式へと変わっていききました(生
徒数が多い学校は今でも単独方式です)。これにより、他学校へ給食
を配送する関係から、給食時間よりも数時間前に調理を終わらせ、調
理品を急速冷凍・再加熱というかたちになりました。向丘高等学校も
平成十五年度から配送される学校になり、生徒の喫食数は年々減って
いきました。平成十九年度の生徒の喫食数は七名と、とても寂しい給
食時間だったようです。

小中学校と続いた給食は、この定時制高校が最後です。給食が終わ
ってしまふのは誠に残念ですが、これからは、自分自身で食事を管理
していかなければなりません。

そこでみなさんには、自分自身の健康を守るためにも次のことを守
ってほしいと思います。

①朝食は必ず食べる(難しい人はおにぎり一個だけでも食べるように
してください。)

②身体によい食べ物を食べる。(どんなものが身体にいいのか考えて
ください。結果、自然と自分の健康を守ることにつながります。)

③地域のもの、旬のものを食べる(地産地消、身土不二、旬の食材を
食べることは身体にとって健康への一番の近道です。)

また、「給食は生きた教材」と言われますように、それだけで一食
分の量や料理・味の組合せ、旬の食材、栄養バランスなど学ぶことが
できます。毎日調理員と共に、そのようなことが生徒に伝わるよう、
また、おいしくて安全な給食を提供できるよう努めてまいりました。
これから食事のことで悩んだときはぜひ給食を思い出してください。
人によっていい思い出、嫌な思い出等あるかもしれませんが、ちょ

つとした時に「また給食のあの料理が食べたいな」と思っていただけ
れば幸いです。

平成19年6月 予定献立表

日	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
5月18日(金)	今日は食育月間です!! 普段より食に関心を持って日々を過ごしてみよう!!				
5月19日(土)	※13日(水)、25日(月)は選抜献立です。どちらか一方を選んでください。 ※牛乳は毎日つづきますが、シェアがつく日もあります。 ※都合により献立を変更することがありますのでご了承ください。				
5月20日(日)	4	5	6	7	8
5月21日(月)	9	10	11	12	13
5月22日(火)	14	15	16	17	18
5月23日(水)	19	20	21	22	23
5月24日(木)	24	25	26	27	28
5月25日(金)	29	30	31	1	2
5月26日(土)	3	4	5	6	7
5月27日(日)	8	9	10	11	12
5月28日(月)	13	14	15	16	17
5月29日(火)	18	19	20	21	22
5月30日(水)	23	24	25	26	27
5月31日(木)	28	29	30	31	1
6月1日(金)	2	3	4	5	6
6月2日(土)	7	8	9	10	11
6月3日(日)	12	13	14	15	16
6月4日(月)	17	18	19	20	21
6月5日(火)	22	23	24	25	26
6月6日(水)	27	28	29	30	31
6月7日(木)	1	2	3	4	5
6月8日(金)	6	7	8	9	10
6月9日(土)	11	12	13	14	15
6月10日(日)	16	17	18	19	20
6月11日(月)	21	22	23	24	25
6月12日(火)	26	27	28	29	30
6月13日(水)	31	1	2	3	4
6月14日(木)	5	6	7	8	9
6月15日(金)	10	11	12	13	14
6月16日(土)	15	16	17	18	19
6月17日(日)	20	21	22	23	24
6月18日(月)	25	26	27	28	29
6月19日(火)	30	31	1	2	3
6月20日(水)	4	5	6	7	8
6月21日(木)	9	10	11	12	13
6月22日(金)	14	15	16	17	18
6月23日(土)	19	20	21	22	23
6月24日(日)	24	25	26	27	28
6月25日(月)	29	30	31	1	2
6月26日(火)	3	4	5	6	7
6月27日(水)	8	9	10	11	12
6月28日(木)	13	14	15	16	17
6月29日(金)	18	19	20	21	22
6月30日(土)	23	24	25	26	27
7月1日(日)	28	29	30	31	1
7月2日(月)	2	3	4	5	6
7月3日(火)	7	8	9	10	11
7月4日(水)	12	13	14	15	16
7月5日(木)	17	18	19	20	21
7月6日(金)	22	23	24	25	26
7月7日(土)	27	28	29	30	31
7月8日(日)	1	2	3	4	5
7月9日(月)	6	7	8	9	10
7月10日(火)	11	12	13	14	15
7月11日(水)	16	17	18	19	20
7月12日(木)	21	22	23	24	25
7月13日(金)	26	27	28	29	30
7月14日(土)	31	1	2	3	4
7月15日(日)	5	6	7	8	9
7月16日(月)	10	11	12	13	14
7月17日(火)	15	16	17	18	19
7月18日(水)	20	21	22	23	24
7月19日(木)	25	26	27	28	29
7月20日(金)	30	31	1	2	3
7月21日(土)	4	5	6	7	8
7月22日(日)	9	10	11	12	13
7月23日(月)	14	15	16	17	18
7月24日(火)	19	20	21	22	23
7月25日(水)	24	25	26	27	28
7月26日(木)	29	30	31	1	2
7月27日(金)	3	4	5	6	7
7月28日(土)	8	9	10	11	12
7月29日(日)	13	14	15	16	17
7月30日(月)	18	19	20	21	22
7月31日(火)	23	24	25	26	27
8月1日(水)	28	29	30	31	1
8月2日(木)	2	3	4	5	6
8月3日(金)	7	8	9	10	11
8月4日(土)	12	13	14	15	16
8月5日(日)	17	18	19	20	21
8月6日(月)	22	23	24	25	26
8月7日(火)	27	28	29	30	31
8月8日(水)	1	2	3	4	5
8月9日(木)	6	7	8	9	10
8月10日(金)	11	12	13	14	15
8月11日(土)	16	17	18	19	20
8月12日(日)	21	22	23	24	25
8月13日(月)	26	27	28	29	30
8月14日(火)	31	1	2	3	4
8月15日(水)	5	6	7	8	9
8月16日(木)	10	11	12	13	14
8月17日(金)	15	16	17	18	19
8月18日(土)	20	21	22	23	24
8月19日(日)	25	26	27	28	29
8月20日(月)	30	31	1	2	3
8月21日(火)	4	5	6	7	8
8月22日(水)	9	10	11	12	13
8月23日(木)	14	15	16	17	18
8月24日(金)	19	20	21	22	23
8月25日(土)	24	25	26	27	28
8月26日(日)	29	30	31	1	2
8月27日(月)	3	4	5	6	7
8月28日(火)	8	9	10	11	12
8月29日(水)	13	14	15	16	17
8月30日(木)	18	19	20	21	22
8月31日(金)	23	24	25	26	27
9月1日(土)	28	29	30	31	1
9月2日(日)	2	3	4	5	6
9月3日(月)	7	8	9	10	11
9月4日(火)	12	13	14	15	16
9月5日(水)	17	18	19	20	21
9月6日(木)	22	23	24	25	26
9月7日(金)	27	28	29	30	31
9月8日(土)	1	2	3	4	5
9月9日(日)	6	7	8	9	10
9月10日(月)	11	12	13	14	15
9月11日(火)	16	17	18	19	20
9月12日(水)	21	22	23	24	25
9月13日(木)	26	27	28	29	30
9月14日(金)	31	1	2	3	4
9月15日(土)	5	6	7	8	9
9月16日(日)	10	11	12	13	14
9月17日(月)	15	16	17	18	19
9月18日(火)	20	21	22	23	24
9月19日(水)	25	26	27	28	29
9月20日(木)	30	31	1	2	3
9月21日(金)	4	5	6	7	8
9月22日(土)	9	10	11	12	13
9月23日(日)	14	15	16	17	18
9月24日(月)	19	20	21	22	23
9月25日(火)	24	25	26	27	28
9月26日(水)	29	30	31	1	2
9月27日(木)	3	4	5	6	7
9月28日(金)	8	9	10	11	12
9月29日(土)	13	14	15	16	17
9月30日(日)	18	19	20	21	22
10月1日(月)	23	24	25	26	27
10月2日(火)	28	29	30	31	1
10月3日(水)	2	3	4	5	6
10月4日(木)	7	8	9	10	11
10月5日(金)	12	13	14	15	16
10月6日(土)	17	18	19	20	21
10月7日(日)	22	23	24	25	26
10月8日(月)	27	28	29	30	31
10月9日(火)	1	2	3	4	5
10月10日(水)	6	7	8	9	10
10月11日(木)	11	12	13	14	15
10月12日(金)	16	17	18	19	20
10月13日(土)	21	22	23	24	25
10月14日(日)	26	27	28	29	30
10月15日(月)	31	1	2	3	4
10月16日(火)	5	6	7	8	9
10月17日(水)	10	11	12	13	14
10月18日(木)	15	16	17	18	19
10月19日(金)	20	21	22	23	24
10月20日(土)	25	26	27	28	29
10月21日(日)	30	31	1	2	3
10月22日(月)	4	5	6	7	8
10月23日(火)	9	10	11	12	13
10月24日(水)	14	15	16	17	18
10月25日(木)	19	20	21	22	23
10月26日(金)	24	25	26	27	28
10月27日(土)	29	30	31	1	2
10月28日(日)	3	4	5	6	7
10月29日(月)	8	9	10	11	12
10月30日(火)	13	14	15	16	17
10月31日(水)	18	19	20	21	22
11月1日(木)	23	24	25	26	27
11月2日(金)	28	29	30	31	1
11月3日(土)	2	3	4	5	6
11月4日(日)	7	8	9	10	11
11月5日(月)	12	13	14	15	16
11月6日(火)	17	18	19	20	21
11月7日(水)	22	23	24	25	26
11月8日(木)	27	28	29	30	31
11月9日(金)	1	2	3	4	5
11月10日(土)	6	7	8	9	10
11月11日(日)	11	12	13	14	15
11月12日(月)	16	17	18	19	20
11月13日(火)	21	22	23	24	25
11月14日(水)	26	27	28	29	30
11月15日(木)	31	1	2	3	4
11月16日(金)	5	6	7	8	9
11月17日(土)	10	11	12	13	14
11月18日(日)	15	16	17	18	19
11月19日(月)	20	21	22	23	24
11月20日(火)	25	26	27	28	29
11月21日(水)	30	31	1	2	3
11月22日(木)	4	5	6	7	8
11月23日(金)	9	10	11	12	13
11月24日(土)	14	15	16	17	18
11月25日(日)	19	20	21	22	23
11月26日(月)	24	25	26	27	28
11月27日(火)	29	30	31	1	2
11月28日(水)	3				

近年の給食の様子

一時限目開始前の午後五時二十五分・・・
「こんにちは」 「ピ・ピ・ピ・ピ」 「ジーン」 「いただき
ます」いつもの給食の始まりです。

生徒は、給食室入口にある給食予約パソコンに自分の生徒番号と暗証番号を入力し、食券を発行します。そして、運搬兼保温用ワゴンの中から熱々のおかずの乗ったトレイを取り出して、ご飯と汁物を調理員さんから配膳してもらいます。

本校定時制課程は、平成十四年度に学校の厨房で給食を調理する、自校調理方式の給食が終了し、平成十五年度から親子調理方式の給食が開始されました。親子調理方式とは、調理校（親）と呼ばれる学校で作られた給食を、受配校（子）と呼ばれる給食を作らない学校へ配送する仕組みです。

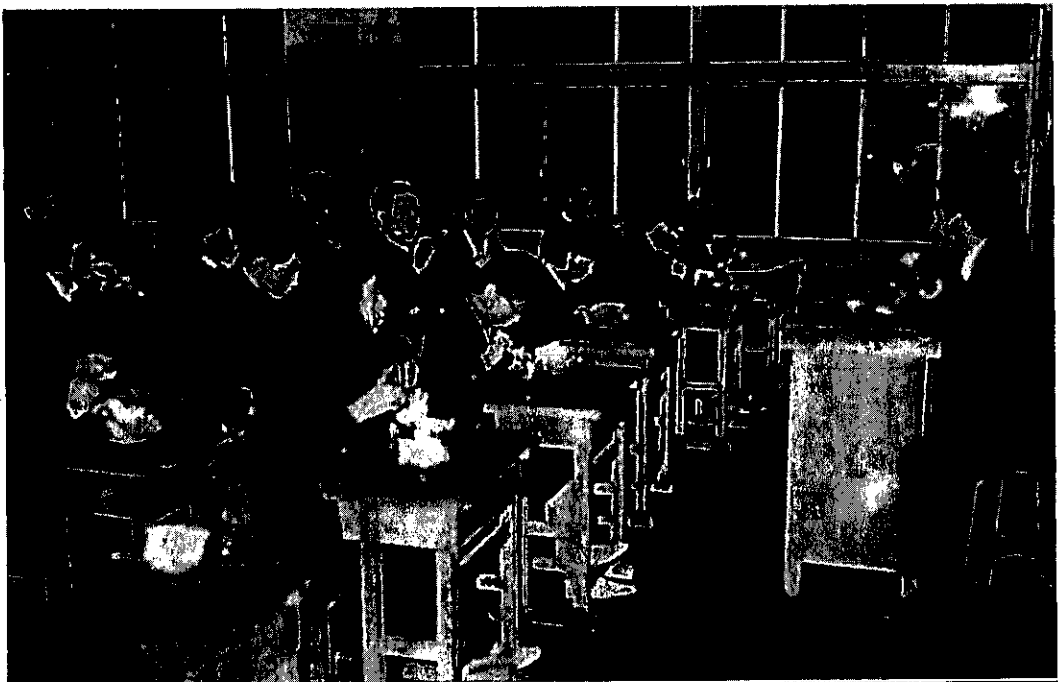
本校の場合は、二週間前までに給食予約用パソコンで予約をして、上野高校で当日調理し急速冷凍保存された給食を調理員さんが運搬し、本校給食室で解凍保温して生徒に配膳されています。

献立は旬の野菜や季節行事にあわせたものが多く、生徒にとっては季節を感じる一つの機会となっています。

また、栄養士さん特製の「今日の給食メニューとメモ」も机上に用意され、食べて見て楽しめる給食となっています。

給食を希望している生徒は、アルバイトの就労時間、自宅での食事時間の事情等で、七名と少なめです。

しかし、気さくな調理員さんや明るい栄養士さんたちと時事ニュース、アルバイト先の出来事、進路のこと等事欠かない話題も副菜として、給食の方式は変われどアットホームな雰囲気の中で食事をしていきます。



▲昭和39年 給食

親子調理方式（上野グループ）の移り変わり

平成十五年度 調理校 小石川高校

平成十六年度 調理校 向丘高校、荒川工業高校、戸山高校

平成十七年度 調理校 上野高校

平成十八年度 調理校 向丘高校、蔵前工業高校、一橋高校

平成十九年度 調理校 上野高校、一橋高校

平成十九年度 受配校 向丘高校

平成十九年度 受配校 上野高校

平成十九年度 受配校 向丘高校

受配校



▲昭和43年 給食



▲平成5年 給食

（文責 小沼 克己）



▲平成13年 給食



▲平成元年 バドミントン部



▲昭和50年 バスケットボール部



▲平成2年 軽音楽部



▲平成元年 野球部



▲平成5年 テニス部



▲平成3年 美術部



▲平成6年 天文部



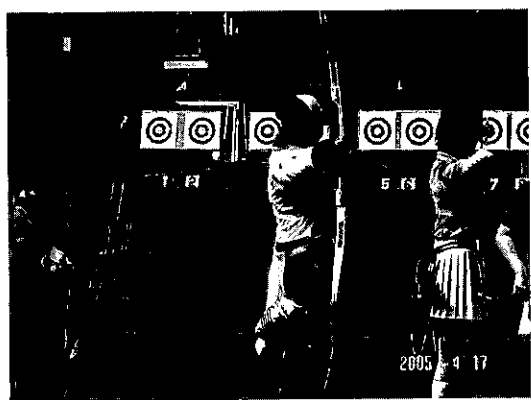
▲平成6年 紙工芸部

二、最近の部活動の様子

学校に認定された生徒会に所属する部活動は、原則として希望する五名以上で成立し、顧問教師指導のもとに自主的に運営されている。平成十六年度の閉課程による募集停止以降も生徒数が減少しているが活発に活動している。

バドミントン部は、週三回活動し、東京都定時制通信制大会に出場し、四回戦まで進出する活躍を見せている。アーチェリー部は射つて楽しむことをメインの活動としている。東京都高体連に加盟し公式戦に年二回ほど参戦し、自己記録の更新を達成した。野外活動部は年二回の校外で活動している。多摩川河川敷、本牧埠頭釣り公園、城ヶ島などで活動し、水質環境や生物の生態環境の変化について調査している。また、釣りやバーベキューなどをして親睦を深めている。

(文責 生徒部 小沼 克己)

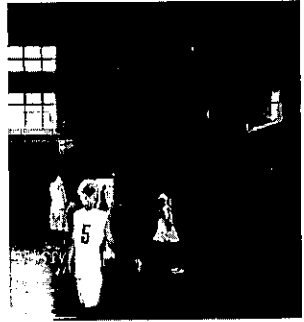


▲平成17年 アーチェリー部 (試合)



▲平成17年 バドミントン部 (試合)

▼平成19年 バasketボール部(大会)

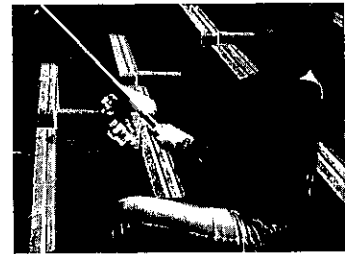


▲平成19年 野外活動部 (バーベキュー)

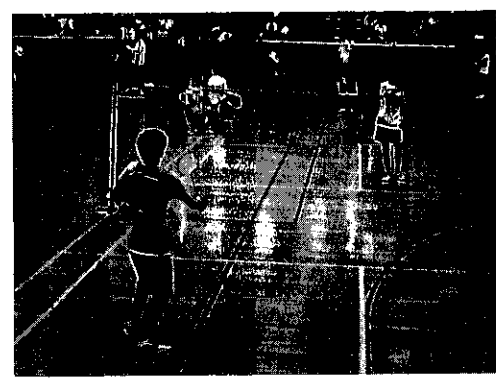
資料2. 平成19年度 部活動

文化	部	運	動	部
野外活動部		バドミントン部		
		アーチェリー部		

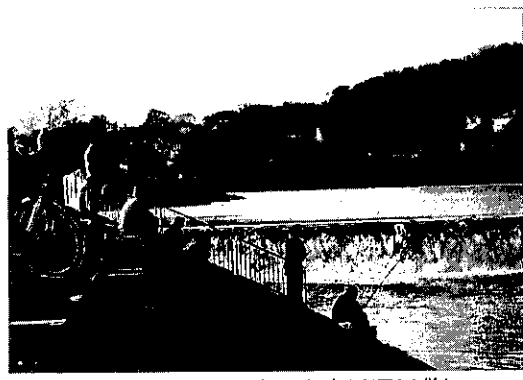
▲資料2



▲平成19年 野外活動部 (釣り)



▲平成17年 バドミントン部 (試合)



▲平成19年 野外活動部 (多摩川河川敷)

生徒会活動について

生徒の自主活動は、全て生徒会組織のもとに行われている。自主活動のための執行機関である各種委員会が設置され活動している。また、部活動及び生徒会活動の根幹をなすホームルーム活動などがある。

主な生徒会活動として、新入生歓迎会、生徒総会、向陵祭、スポーツ大会、ボウリング大会、ボウリング教室、四年生を送る会などがあげられる。特に、その中においても、向陵祭、四年生を送る会は、生徒主導のもと企画運営が行われ、卒業文集や送辞の文章にも思い出深い行事として生徒たちは書き残している。



▲平成16年 新入生歓迎会



▲平成17年 ボウリング大会



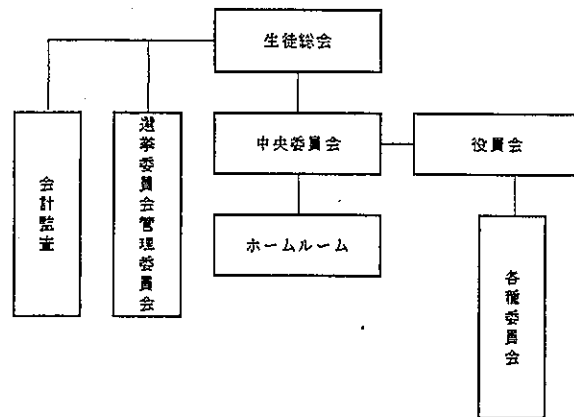
▲昭和44年 向陵祭演劇



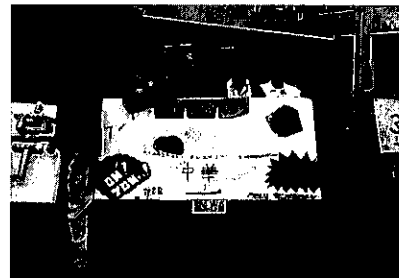
▲昭和60年 向陵祭



▲平成7年 向陵祭



▲資料 1



▲平成2年 向陵祭

近年の向陵祭の様子は、平成十四年から全日制との共催という形態になっている。企画内容は、喫茶店および駄菓子やお菓子の販売が伝統的に続いている。毎年好評を博しており、美味しいお菓子和定時制ならではのくつろぎ空間を来校するお客さんに提供している。



▲平成14年 向陵祭



▲平成15年 向陵祭

また、四年生を送る会は、卒業を控えた四年生への餞として、様々な工夫を凝らして開催されている。在校生によるバンド演奏やコント、教員による太鼓演奏、合唱、ダンスなどが熱演されている。

そして、メイン企画でもあるスライドショー上映では、在校生が企画、作成を自主的に行い、熱心に取り組むあまり、放課後二十三時近くまでかかることもしばしばであった。上映内容は、入学時からの四年間を数々の写真で構成し、その時々流行した曲を挿入するというシンプルなものだが、卒業生は懐かしさと共に、在校生からの心のこもった贈り物として受け取り、お互いの気持ちが一つになる優しい時間を共有できる機会となっている。

平成十六年度から在籍生徒が減少しているが、本校生徒会活動に参加する生徒は多く、学習活動では得ることができない時間をもてたのではないかと感じている。



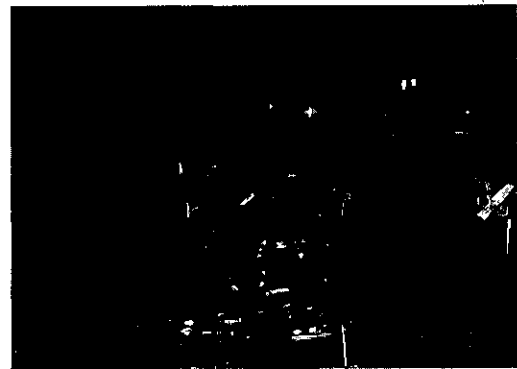
▲平成14年 卒業生を送る会



▲平成12年 卒業生を送る会



▲平成15年 卒業生を送る会



▲平成15年 卒業生を送る会

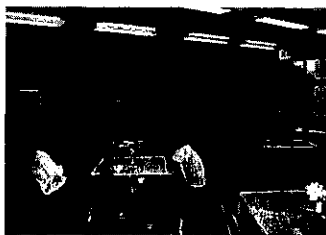
六十年目の軌跡 最後の卒業生の想い出

生徒会副会長 宇津野 鑑

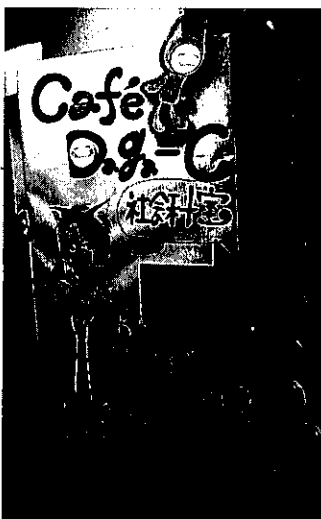
向丘高校で過ごした日々の中で一年生の時の向陵祭が想い出に残っています。定時制課程全学年が一体感をもって作り上げていく様子が、とても新鮮でした。それが生徒会に入るきっかけとなりました。一年生ということもあり、経験も無いので自分で考えて動くことはあまりありませんでしたが、「かゆいところに手が届く雑用係」を目指して運営に関わりました。

自分が四年生になり生徒会副会長として文化祭運営の中心的役割に就くと、周囲に必要とされていることや、実際に自分がやっていることが、一年生の時に目指した「かゆいところに手が届く雑用係」の延長線上にありました。全体をまとめていた四年生がやっていたことは、まさにこういうことなんだなと実感しました。

修学旅行では沖縄に行き、三泊四日で寝食を共にしたことでクラス全体の一体感が増し、想い出に残る有意義な時間を過ごせました。自分たちの代で閉課程を迎えることは残念ですが、四年間の想い出を胸に向丘高等学校定時制課程の六十年間を飾る最後の在校生として、胸を張って卒業をしていきたいと思えます。



▲平成17年 向陵祭



▲平成18年 向陵祭 1



▲平成16年 向陵祭



▲平成18年 向陵祭準備 2



▲平成18年 向陵祭準備 1



▲平成18年 向陵祭 3



▲平成18年 向陵祭 2

定時制 校外活動 (修学旅行と遠足)

『修学旅行』

昭和33年 5月1日～5日
 昭和34年 6月3日～7日
 昭和35年 5月1日～4日
 昭和36年 9月20日～24日
 昭和41年 4月26日～30日
 昭和42年 4月25日～29日
 昭和44年 4月26日～30日

北海道
 東北
 関西
 紀伊・京都
 紀伊・京都
 小豆島・広島・
 岩国・姫路・京都



修学旅行 / 前丘高校6期

▲昭和28年 修学旅行

昭和45年 4月25日～29日
 昭和46年 10月26日～30日
 昭和47年 4月25日～29日
 昭和48年 5月29日～6月2日
 昭和49年 4月30日～5月4日
 昭和50年 5月17日～21日
 昭和51年 5月18日～21日
 昭和52年 5月13日～17日
 昭和53年 5月24日～27日
 昭和54年 9月24日～27日
 昭和55年 9月23日～26日
 昭和56年 9月21日～23日
 昭和57年 10月8日～10日

広島・四国・小豆島
 山陰
 秋田・岩手
 四国
 鳥取・島根・岡山
 能登・金沢
 山口・広島・岡山
 会津
 伊勢・紀伊
 北陸・高山
 奈良・京都
 東北



▲昭和42年 紀伊



▲昭和47年 入道崎燈台



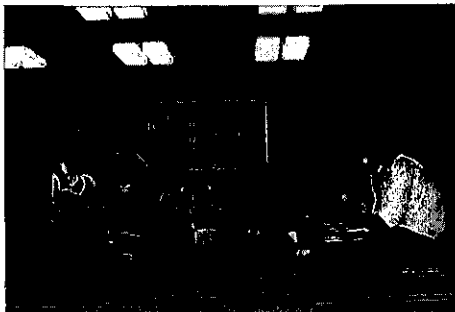
▲昭和52年 広島



▲昭和53年 福島

昭和58年 10月14日～16日
 昭和59年 10月12日～14日
 昭和60年 10月10日～13日
 昭和61年 10月10日～12日
 昭和62年 10月8日～10日
 昭和63年 10月16日～18日

高松・松山・広島
 京都
 山陽・瀬戸内
 山陰・山陽
 広島・小豆島・倉敷
 十和田



▲昭和50年 室生寺



▲昭和60年 吉備路サイクリング

平成元年 10月10日～12日 四国・山陽・神戸
 平成2年 10月9日～11日 倉敷・四国・神戸
 平成3年 10月9日～11日 小豆島・岡山
 平成4年 10月7日～9日 北海道
 平成5年 10月14～16日 北海道
 平成6年 10月13日～15日 北海道
 平成7年 10月19日～21日 京都・伊勢・志摩
 平成8年 10月23日～25日 沖縄
 平成9年 10月7日～9日 北海道
 平成10年 修学旅行参加者少数のため中止
 平成11年 修学旅行参加者少数のため中止
 平成12年 修学旅行参加者少数のため中止
 平成13年 修学旅行参加者少数のため中止



▲平成3年 小豆島



▲平成6年 北海道



▲平成15年 沖縄

平成14年 10月27日～30日 北海道
 平成15年 6月10日～13日 沖縄
 平成16年 6月13日～16日 沖縄
 平成17年 6月14日～17日 北海道
 平成18年 6月13日～16日 沖縄
 平成19年 6月27日～30日 沖縄



▲平成17年 北海道



▲平成19年 渡嘉敷島



◀平成19年 沖縄

(平成10年度以前の記録については
 創立五拾周年記念誌より抜粋)

『遠足』

- 昭和 42 年 筑波山
- 昭和 43 年 観音崎
- 昭和 45 年 上野公園文化財見学・奥秩父ハイキング・箱根彫刻の森ハイキング等
- 昭和 46 年 ユネスコ村・マザー牧場・高尾山・泉自然公園・城ヶ島
- 昭和 47 年 狭山湖
- 昭和 48 年 矢切の渡し
- 昭和 51 年 奥多摩
- 昭和 59 年 浜離宮・浅草
- 昭和 60 年 鎌倉
- 昭和 61 年 森林公園
- 昭和 62 年 上野公園
- 昭和 63 年 東京ディズニーランド
- 平成元年 芦ヶ久保
- 平成 2 年 東京ディズニーランド
- 平成 3 年 東京ディズニーランド
- 平成 4 年 豊島園
- 平成 5 年 東京ディズニーランド
- 平成 6 年 ナムコワンダーエッグ
- 平成 7 年 東京ディズニーランド
- 平成 8 年 後樂園遊園地
- 平成 9 年 東京ディズニーランド
- 平成 10 年 後樂園遊園地
- 平成 11 年 後樂園遊園地
- 平成 12 年 東京ディズニーランド
- 平成 13 年春 横浜・浅草・小石川後樂園～後樂園遊園地
- 秋 多摩テック
- 平成 14 年春 お台場・横浜・上野動物園
- 秋 富士急ハイランド
- 平成 15 年春 浜離宮～浅草・後樂園遊園地・東京ディズニーランド・東京ディズニーシー
- 秋 八景島シーパラダイス
- 平成 16 年春 横浜・お台場・東京ドームシティアトラクションズ
- 秋 東京ディズニーランド
- 平成 17 年春 品川アクアスタジアム・葛西臨海水族館・東京ドームシティアトラクションズ
- 秋 富士急ハイランド
- 平成 18 年春 サンシャイン水族館・横浜
- 秋 東京ディズニーランド
- 平成 19 年秋 葛西臨海公園にてバーベキュー



▲昭和47年 狭山湖



▲平成元年 あしがくぼ果樹公園

(平成 10 年度以前の記録については創立 50 周年記念誌より抜粋)



▲平成13年 多摩テック



▲平成17年 富士急ハイランド

伝えたいことはいつもひとつ

司書教諭 石川 照子

定時制の教室は三階、図書館は二階です。図書館の入り口から、一階上の明かりが常に見えますが、この間の空間は遠い、永遠の隔たりにです。その間を少しでも埋めてみたいと、職員室の司書の机の上に、その時々メッセージを込めて、本を並べます。

いつも伝えたいことはただひとつです。文字で書かれたものを読むことに馴染んで欲しい、図書館を上手に使って欲しい、ただそれだけです。

あからさまな形で、情報がお金になる時代、誰もが無料で情報を利用できる場所が「図書館」です。しかも、図書館では個人の利用記録が残らないような配慮がなされています。これは、とても大切なことです。「インターネットの方が断然便利だよ。わざわざ、電車に乗って行かなくてもいいしさあ」と賢明な諸君は言うかもしれません。しかし、ネットは便利でも、情報の正確さと発信者の身元を判断するのに技術を要します。時間的な、あるいは知的な、検証を経てきたものではないからです。

なぜ、文字情報の方が、自力で何事かを身に付けようと思うとき、より役に立つのでしょうか？それは、それまでにたくさんの先人たちの考え方を受け止め、受け継いで来た、集大成としての情報が、まるごとあるからです。大部分の本に、著者とたいがいは略歴も明記されています。参考文献に、あとがきなどという他者からの推薦や出版社という太鼓判も押されています。

「だって、文字を読むのはメンドイ、漢字がやたら多いし。」ごもつともですが、慣れの問題です。取扱説明書でいい、よく行くイタリ안의メニューでいい。丁寧に、一字一句おろそかにしないで、読ん

でみることから始めて下さい。いつのまにか、読むことが苦痛ではなくなっています。声に出して読んでみて下さい。いつのまにか、読むことが楽しくなっています。

「職員室の小さな机の上は、いつもゴタゴタしていて、いろんな本がおいてあった。あの中の、赤い表紙の本が、今、私に必要な気がする。」

残念なのは、もしかして十年後に、その存在に気づいてくれたあなたがいたとしても、もうここには、「向丘定時制図書館」はないということなんです。あなたには、戻って来て確かめる場所はありません。しかし、場所はなくても、人はいます。

今、ここで作った人とのつながりを大切にして下さい。そして、本当に困ってしまっても、もうどうにもならないと思いつめた時、図書館に行つて、先人の声に耳を澄ませて見て下さい。きっと、あなたのお役に立つでしょう。

▼職員室の司書コーナー



向丘の四年間

日本校定時制副校長 金城 和貞

この度、定時制高校の適正配置の施策で、向丘高校が閉課程を迎えることは、数多くの同窓生や関わりがあった教職員のみなさまにとつては断腸の思いではないでしょうか。

平成十年に行われた、創立五十周年記念・校舎改築記念式典においては、同窓会長の小川義夫会長はじめ、多くの同窓のみなさまにご列席いただきました。同窓会総会にもたくさんの同窓生がご参集され、脈々と続く向丘定時制の歴史と伝統を感じました。

さて、私が赴任した当時は、百を超える都立の定時制高校があったと記憶しております。しかし、その多くが単学級校で生徒数も全校生合わせても百人に満たない学校ばかりでした。向丘高校も、全校生が五十人程度で、二年連続して入学者が一桁だと募集停止という際どいところで踏みとどまっていました。在校生は、年齢も経験も様々でした。「昼間は仕事、夕方から勉強」という方もいらつしやいましたが、それ以外の理由で定時制高校に通ってくる方も多くいらつしやいました。在校生が少ないので、あつという間に全校生の名前を覚ええました。給食の時間や休み時間に、〇〇君は今日は来ていないな、〇〇さんは最近元気がないかなど、一人一人の様子が分かる理想的な環境でした。生徒のみなさんにとつては、毎日登校することがいちばん大変なことだったと思います。途中で退学したり、転校したりで、入学から四年間通い続けることは、並大抵の努力ではなく、四年間通い卒業を迎えた方々には、本当に尊敬と祝福の念でいっぱいでした。

私にとつても、たくさんの誘惑や障害を乗り越え、卒業を目指して勉強していた生徒のみなさんと生活できた四年間の貴重な経験は、現在の職場においても生徒の指導や相談の際に役立っています。

明確な目的もたず、外見やその場の楽しみだけに終始して、ただ何となく当たり前のように高校に通っている高校生がたくさんいます。そのような高校生に関わっていると、余計に、定時制の生徒のみ

なさんの素晴らしさを再認識させられます。

これからも、定時制の果たす役割は大きく、定時制は必要です。今後も微力ながら定時制教育の応援をしていきたいと思えます。



▲平成10年 新校舎全景

共にありし日を誇る

日本校定時制教諭 北川 太一

開校当時のおよそは、五十周年の記念誌に書いた。友人を訪ねて来ていきなり授業をやらせられてから、残りの大学生活とそのあとの研究科時代五年の二足の草鞋。そして六十歳の定年まで、ここで生涯の道筋を決めることになったのは、そんなことを可能にした、今にして思えばこの不思議な学校や、その生徒たちの魅力につかまったからと言うほかない。

目を閉じると、宇野哲人校長に始まる何代もの校長や主事の面影が過ぎる。上に媚びず、ことに定時制の生徒たちに慕われた校長や主事とは、よく議論もし、心も許した。ここには飛び切り上等な自由があった。戦後も時を隔てて、様々な動乱が学校を巻き込んだけれど、若い教師たちは「郵便ポストの数ほど定時制高校を」をモットーにして戦った。一々名前を挙げたい誘惑を感じるけれど、この学び舎に集まった教師たちの、好学の気風は誇つていい。地位でもなく、肩書きでもなく、それぞれの部門で地道な、かけがえのない仕事を今もつ。

もちろん生徒たちのことでは、勤務時間など当然のように無視される。朝早くから夜遅くまで、さまざまな重荷を抱える生徒たちがいつもそばに居る。生徒たちは学校での少ない時間で勉強もすれば、よく遊びもした。持ち寄りのレコード鑑賞や本読み会。クラブ活動などはかけがえのない時間だ。例えば新聞紙を敷いてその上で仮眠をする演劇部の生徒たちへの気配り。それらを見守る教師や管理職。生徒達もそれに応える。高校に波及してきた学園紛争で閉鎖された学校を、「僕たちは勉強したいんだ」と主張して解かせたのも全定の、生徒たちの話し合いだ。生徒たちについて書き始めたらきりもない。誰も彼も懐かしく頼もしい社会の担い手。いつも心に残る仲間たち。定年後の僕の仕事をいまでも助けてくれているのは卒業生達の集団だ。お互いを認め合い支え合う教師と生徒の集団が、かつてあり、今もある、そんな

定時制での生活を、僕はどんなに感謝し、誇りに思うことか。

新校舎五月頃完成か 二十日起工式

五月頃には新校舎が完成し、二十日に起工式が行われる。新校舎は、従来の校舎よりも広く、明るく、設備も充実している。起工式には、関係者や保護者、生徒の皆さんが参加される予定である。

後援者名簿
上半期使用明細
近日発表

1948年度最右を飾る
12月18日(土)
Advancement Xmas
集金部 下カイ



▲昭和23年 謝恩会

開校六十周年及び定時制閉課程に寄せて

日本校教諭 仁井田 孝春

東京都立向丘高等学校創立六十周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

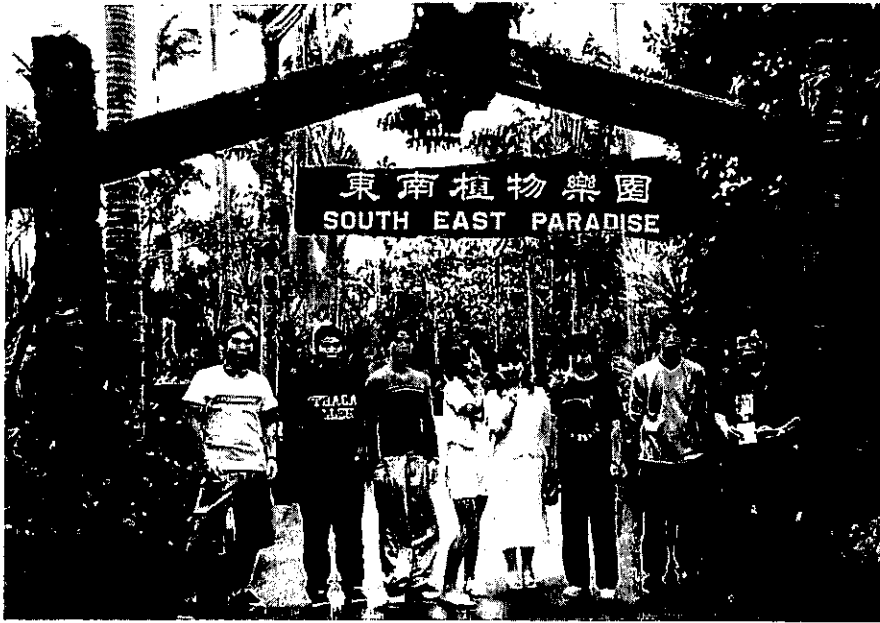
また、定時制課程におかれましては、その役割を貫徹されましたことに心より敬意を表します。

私は、平成四年度から平成十一年度までの八年間を向丘高校定時制課程に奉職させていただきました。この間、校舎の改築が行われ、二回の移転作業にかかわり、教育活動以外にも施設・設備・備品等の整備業務に追われる多忙な日々であったことを思い起こします。そして本校の新校舎は、全館空調、エレベーター付きのモダンな造りになりました。

私が本校に着任にした当時は、定時制課程にも普通科二学級、商業科一学級が設置されており、一年生から四年生まで十二学級、二百名余りの学生が在籍し、活気がございました。その後、少子化にともない入学する生徒が減少し、初めに商業科が募集停止に、次に普通科が一学年二学級から単学級へと縮小し、私が最後に勤務した平成十一年度には、わずかに全校四学級、生徒数も五十人ほどの小規模校になっていたと記憶しております。

勤務した八年間に担任として卒業生を二回送り出しましたが、記憶として強く残っているのは、理科の授業において定時制高校ではあまり行われていなかった実験・実習をほぼ毎回取り入れたことと、航空機を利用した初の沖縄修学旅行を実施したことであります。実践するまでには、企画立案、準備、安全対策等、困難な課題が山積しておりましたが、当時の北村正生校長先生の理解と、堂山教頭先生・金城教頭先生のご支援を賜り、万事順調に進行することができ、生徒や保護

者からも喜んでいただけたことが良き思い出です。
同窓生の皆様は閉課程になることをさぞや残念に思われていること
でしょう。当時の卒業生とも時折連絡をとることや、集まること
があります。機会があれば学校の一教室をお借りして、当時を偲ぶ会を開
催し、思い出話に花を咲かせたいものです。



▲平成8年 修学旅行（沖縄）

創立六十周年および定時制課程閉課程を迎えることに寄せて

日本校定時制教諭 尾崎 武彦
創立六十周年ということを伺い、以前五十周年記念誌の編集委員（定時制）をさせて頂いた記憶が甦りました。そこでの印象に残るもののひとつは、「給食」です。私が定時制に赴任したとき、給食があることに新鮮さを感じました。五十年記念誌の原稿にかなり昔の献立表があり、過去の就労学生を支援するための配慮を感じました。私が定時制に勤務しておりましたころも、栄養士の方そして調理師の方などの生徒に対する想いから、とてもおいしいそして栄養のバランスが考慮されたものが提供されていきました。昔から続いている定時制ならではの取り組みだと感じたものです。さらに、クリスマスやこどもの日などを意識した献立や季節を感じさせる旬な食材が、わたしを楽しませてくれました。そんなことを知ってかどうか、「あれっ？〇〇はさっき給食、食ってたよね。いないね。どうした？」「先生。〇〇は、飯だけ食って帰りましたあ。」などという生徒とのやりとりが懐かしく感じます。現在の給食はセンター方式のようですが、生徒たちはそれなりに順応しているのでしょう。

ところで、定時制課程は閉課程を迎えることになり、とても寂しい気持ちになりました。時代の流れで仕方のないことかもしれませんが、定時制で頑張っていた生徒たちと過ごしたことを想うと、残念でなりません。様々な理由で定時制を選択した生徒が多かったです。その「理由」も千差万別で、わたしにとってもその生徒たちと出会えたことは、とても大きな人生勉強になりました。「過去の挫折から這い上がる」とする成年の生徒、「人間関係で失敗した生徒」など、ここで踏みとどまらなければ次がない生徒たちと、本心でぶつかったり悩んだりしたものです。そんな生徒たちにも助けられながら、最後は卒業していく姿を見て頼もしく思いました。わたしが担任をもったある生徒が、「俺が高校を卒業したっていうと、みんなびっくりするんだぜ。俺だ

「って信じらんねー」と言ってくれたときは、定時制の存在する意味を確信したものです。また、定時制の教員を経験したことは、わたしにとつて宝物となりました。言葉に出さなくてもそのような想いを達成させる手助けが、定時制の役割のひとつだと思えます。その定時制もなくなりませんが、巢立っていった生徒たちが、この社会に対して自分の貢献を自信をもってやってくれることを願っております。



▲平成12年 授業風景

当時の保健指導などを振り返って

旧本校定時制養護教諭 野沢 千恵子
向丘定時制は、今年度創立六十周年の記念の年に閉課程を迎える。同じく私も定年を迎える。養護教諭として前半二十二年間を中学校で、後半十六年間で定時制で勤務し、平成十一年から十七年の七年間を向丘で勤務した。中学校勤務の時は大規模校のため、保健室に来室する多数の生徒の対応と、生徒の保健委員会活動で一杯だった。定時制は生徒数は少ないが、心身の健康課題のある生徒が多く「健康相談」を重点に取り組んだ。

向丘では、定期健康診断が終了したところで、新入生と転編入生に対して「呼び出し」という形で健康相談をした。最初はH Rや試験後の時間を利用して実施したが、途中からH Rや自習時間・放課後を利用した。入学時の保健調査票や健康診断の結果、担任などからの情報を基に健康相談をした。初めに、生徒に「体や心のことで何か心配なことやクラスで困っていることはないか。」と聞き、何もないときは健康診断で発見された病気の説明や治療の必要性を指導した。特に気になる生徒に対しては、食事・睡眠など生活全般について詳しく尋ねた。また小・中学校及び高校のとき三十日以上欠席がある生徒について、本人が話したくないといえれば別だが、理由を丹念に聞いた。二学期以降は個々に健康相談に来る生徒に対応した。もちろん気になる生徒が出た場合は、その都度私の方で呼び出して健康相談を実施した。当時、向丘独自で実施していた取組に、歯の保健指導と眼科の検診・健康相談がある。歯の保健指導は、六月と七月の短縮時間やH Rを使って実施した。当日は「歯の健康法について」というB4版三枚の資料に基づき歯周疾患用の歯磨きの必要性を指導し、参加者全員に歯ブラシをあげ、希望する生徒には歯の染め出し検査や検査液を渡した。眼科検診は江川眼科校医の協力により、二学期に希望者を募り、放課後校医の病院まで養護教諭が引率し、視力検査・眼圧検査・眼底検査

等を無料で実施した。三学期には眼科校医による健康相談を本校保健室で実施した。

向丘を振り返って

赴任した平成十三年は平成不況のどん底でした。在校生のアルバイトは事欠かないものの、卒業後の就職については暗い状況が続いていました。東京でも高卒の有効求人倍率は一倍を切る事態で、定時制への求人票は皆無でした。

そうした中、向丘高校は全面改築が終了し、学習環境が整い、また、不況が後押しするように本校を希望する生徒が増えてきて、六十名を切った在校生は百人に増えていきました。こうした生徒たちに、卒業を機に進学の実現か、正社員としての就職を保障していく、いわゆる「出口対応」・「進路保障」の道を探っていきました。そして、初めて向丘高校にキャリア教育を入れていく試みを行いました。

ハローワーク水道橋から講師をお呼びして「職業講話」を実施し、「正規雇用」つくことの重要性を語っていただきました。健康保険があつて、厚生年金と雇用保障があることが、また、収入を確保して安定した生活を送ることが、人間の尊厳・生きていく上でいかに大切であるかを学ぶ試みでした。

また、ハローワークから資料を取り寄せて、「職業適性検査」を行い、各人の適性を問いつつ、生徒を引率して、ハローワークに行つて就職の世話をお願いしてきました。

進学については、進学情報会社を介して、大学・専門学校への「進路ガイダンス」を行いました。直接、学校から情報を仕入れるとともに

に、生徒の「進学」への関心を引き寄せて、前向きに学校生活を送るための試みです。

こうした取組が徐々に生きてきて、卒業生をもつた平成十四年度では、希望した進学の六割を実現することができ、次年度平成十五年度はさらに充実した結果があらわれました。しかし、就職に関しては、定時制生徒の進路保障はまだまだ厳しいものがあります。ここに来て、土砂降りを脱し、少し日が差してきましたが。

厳しい中で、卒業生が頑張っている姿に接すると、言いしれぬ喜びを感じます。平成十七年に離れましたが、今でも懐かしさでいっぱいです。向丘定時制の閉課程は残念の極みです。卒業生は頑張つて、人生を切り開いていてもらいたいと願っています。



▲平成14年 修学旅行（北海道）

定時制の開課程にあたって

昭和二十八年年度卒業生 菅井 正巳
昭和二十三年の創設から六十年、都会の星空の下で多くの生徒を導いた学窓・課程が平成二十年三月をもって閉ざされるといふ。幾多の同窓生はみな等しくある種の感慨をかみしめているのではなからうか。昭和二十九年の卒業生である私は、木造校舎の室内灯の下で学び、薄暗い校庭を走り、また都電で通学したあの日の時に思いをはせる。

私は昭和二十六年の二月、山形県立高校からの転校届を携え、本校の職員室で教頭先生と天野平八郎先生と面談した。天野先生は「よく来てくれたね。わしは一年A組担任の天野です。A組で頑張ってください。授業に出るのでその間にこれを書いて下さい」と一枚の用紙を手渡し職員室を出て行った。その用紙は英語の期末試験問題であった。いきなりの試験問題に面食らったものである。転校手続きを終えたのち、先生に導かれ一年A組の教室で皆さんに紹介された。先生から「何か挨拶することがあれば」と言われたが、私は「菅井と言います。どうぞよろしく」の挨拶だけで頭を下げた。東京言葉に慣れておらず、山形のずうずう弁では恥ずかしいとの思いがあった。

この日から都会の高校生活が始まった。天野先生は「わしは五尺の小男だが熊本生まれの九州男児だ。誰にも負けない強い信念をもって。何でも相談してくれ」と、よく声をかけてくれた。

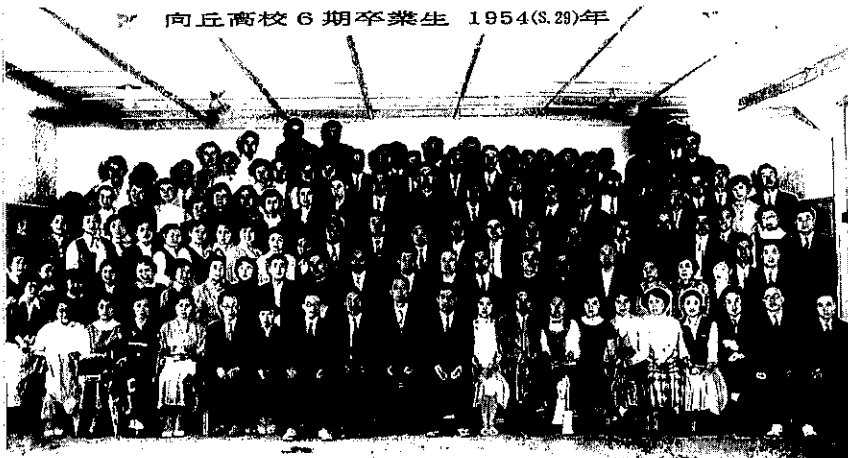
私は高校一年の冬、家庭の事情で山形県から上京した。住み込みで勉強のできる仕事に就いた。早朝から夕方までしかも週末も仕事がある中で、その疲労感や想像以上に厳しく勉強への意欲をむしばんだ。向学心の意気込みだけではまなならず幾度も挫折感を味わった。が、先生から叱咤激励され卒業の日を迎えることができた。大学に進学し在京の会社に就職した。昭和三十八年米国赴任の挨拶に学校を訪ねたとき、先生は小躍りして喜んでくれた。その時の先生の顔が今も脳裏に刻まれている。定年退職まで会社の中核で活躍できた裏には、本校

在学中に受けた先生や、級友の強烈な後押しがあったからに外ならない。

平成十五年の秋、A組の有志が京都に集い五十年前の修学旅行の再現、京料理を楽しんだひとときに大きな感銘を覚えた。過ぎてみれば、それなりに謳歌した学園生活のひとこまがふつふつとこみ上げてくる。本校同窓の皆さんのご多幸を祈念したい。



◀ 昭和28年度卒業生
(6期生) 同窓会



向丘高校 6期卒業生 1954(S. 29)年

運命的な人との出会い

昭和三十二年度卒業生 小川 義夫
創立六十周年心よりお慶び申し上げます。

平成二十年三月には定時制課程が閉じることになりました。感慨無量でございます。思えば昭和二十九年世の中の動きもようやく軌道に乗り始めた頃、私は第十期生として定時制課程に入学いたしました。

卒業してから既に半世紀が過ぎてしまいましたが、昼間働きながら夜は学校、今思えば大変でした。当時、四クラスで百二十名余りの生徒数でした。何度も挫折しようと思ったことがありました。その時の担任が北川太一先生でした。教科は数学でした。当時はまだ仕事の都合などで、授業に間に合わない生徒が大勢いました。みんなが集まると、注意することもなく、怒ることもなく、授業が始まります。なぜならば、数学は基礎的なこと、特に公式を階段を一段一段しっかりと踏みしめるようにしてきちんと覚えておかないと、明日に進むことができないからです。一人でもおちこぼれないよう、急がず、焦らず、一歩一歩を懇切丁寧に一人一人に言い含めるように教鞭をとられておりました。

数学も、人も、砂上の楼閣ではいけないことを学びました。そして、授業の始まる前や、時間のある時、色々のお話をしてくださいました。特に、高村光太郎のお話が多かったです。人としての生き方を、毎日のお話してくださいました。後になって知ったことですが、北川先生はご高齢の現在でも、高村光太郎研究の第一人者として多くの著書を出され、テレビ出演はもとより、全国で研究発表の講演をなされ、多忙な毎日を過ごしておられます。そんな先生に出会えたことで、現在の私が存在しているように思います。

この学校で生涯の師とめぐりあったことに心から感謝し、誇りとしております。勉強はもちろんのこと、人としても色々とお話を聞いているうちに、人間形成期であった私に大きな影響を与え、元気と勇氣

をいただきました。

そんな時に、よき先輩を紹介していただき、縦の繋がりができました。クラブ活動では柔道部と演劇部に所属しておりました。時間帯にはいつも先輩たちが登校して私たちの指導にあたってくれました。柔道では、交流試合が盛んで、勝ったり負けたりしたこと。演劇においては、東京都の大会で私たちの「春雷」が優勝したこと。大勢のかけがいのない仲間を得たこと。思い出は山ほどあります。

卒業してからも、いい後輩を紹介していただき、いま、同窓会が続いているのは、北川先生のおかげだと思っております。その間、PTA会長、同窓会会長等、微力ながら何年か勤めさせていただきました。

六十年は長い年月です。世の中もずいぶんと変わりました。建物も、教育環境も当時と比べると夢のようです。だからこそ、この学校の伝統を育ててくれた諸先生方のご尽力を忘れてはならないでしょう。定時制は閉課程になりますが、その心はいつまでも伝えてゆきたいと思えます。そして今後も存続していく、都立向丘高校のますますのご発展と飛翔をお祈りいたします。



▲昭和42年 運動会

定時制時代の回顧

昭和三十五年度卒業生 佐藤 昭

入学式の当日は、夕映えで桜が見事な晴天であった。四組構成の総勢一五〇名皆輝いていた。勤労学生としての出発である。職場の先輩三人もこの学舎を卒業した。昼働き夜に学んだ兵である。

山形から上京して一ヶ月、言葉遣いも少しずつ慣れクラスの仲間に融け込んだ。日ごとに授業も難しくなつてゆく。一時限の終わりに睡魔が襲った。他の机でもコックリ。教師も見逃してくれた。若葉の萌える五月にクラス仲間以小河内ダムにハイキング。河原で頬張つたおにぎりの旨さは格別だった。晩秋には、先生の引率で深大寺へ散策、手廻し蓄音機の音楽で大きな輪を作りフォークダンスに興じた。女生徒の手に触れては、お互いに顔を赤らめた記憶が遠く思い浮かぶ。

四年時の春、社長の許可が得られ修学旅行に参加した。大阪、京都、志摩、和歌山への四泊五日の旅だった。雨の東京駅に夕方六時集合。一人の欠席もなく百人余の団体旅行である。車中ではクラスを超えての和やかな雰囲気。寝不足の中大阪へ到着。バスで一路京都に銀閣寺・清水寺・西本願寺等市内を遊覧、歴史的に由緒ある知恩院に宿泊する。百畳敷にお膳を並べて夕食を摂る。団体ならではの光景だ。翌日は比叡山延暦寺の根本中堂で高僧から講話を聴き、山頂ヘドライブ、眼下に広がる琵琶湖が海原のごとく壮観だった。次に夫婦岩を街道から眺め英慮湾へと向かう。白浜が目眩しかった。見晴らしのきく鳥羽の旅館に泊まり朝は真珠島に渡った。御木本幸吉翁の前で記念撮影。若き友の顔が甦ってくる。最終日、トコトコとロープウエーで高野山・金剛峯寺に詣でた。朝の清々しさに心が洗われる思いで下山した。皆無事に東京駅に着き安堵した。青春の忘れられない日々であった。

我らの時代は何事にも敏感で向上心と情熱が旺盛であった。顧みて、大学まで進めたのは自分の健康は元より、職場の温かい理解があり、

学舎でお互いに支え合つた、働きつつ学んだ親友達との出会いによる得がたい経験があつたからこそ、今日があると感謝している。



▲昭和35年度 卒業式

私にとつての四年間

昭和四十年年度卒業生 米倉 久美子

向丘高等学校定時制が閉課程を迎えるというお話がありました。このことは「時代の流れとは言え、自分たちが心の抛り所として大切にしてきたものが無くなってしまふ」という一抹の寂しさが心をよぎります。

私が卒業してから、すでに四十年が過ぎようとしています。しかし、今でもあの時の若さや、夢や、友との語らいを鮮明に覚えているのはなぜでしょうか？

様々な事情で、進学をあきらめかけていた私たちにとつて、定時制で学べるという事は、一本の光が差し込んで来たようなものでした。年齢も、昼間の仕事も、家庭環境もすべてが違うもの同士の集まりでした。でも、何の違和感も無く勉強やクラブ活動に夢中になれたのは、欲していた学ぶと言うことを手に入れた喜びにほかなりませんでした。

しかしなんと言っても、一番の楽しみは給食。パンと銀紙に包まれたマーガリン。おでんやシチュー等のおかず一品とミルク(脱脂粉乳)が定番でしたが、ある日、主食をお米とする、米飯給食が始まるとうのです。皆、珍しさと、嬉しさに給食室の前をうろうろ。記念すべき米飯給食の第一回目は「カレーライス」だったと思います。

また、クラブ活動も盛んで、卒業した先輩が放課後、技術指導に足を運んでくれたり、他のクラブの人たちの協力があつたりと皆が力を貸してくれました。私たちの遅くまでの居残り練習を警備員さんが黙認してくれたり、忙しさの中にも優しさがあふれていました。

豊かになった今の時代、いじめや登校拒否など、この楽しかった学校生活を味わうことなく、又、その思い出を胸に刻むことなく、青春が過ぎてしまうのだとしたら、あまりに寂しすぎると思います。

泣いたり笑つたり四年間で得た経験は、その後、実社会で困難な

ことに出会っても、自分の底力となりました。先生方の転勤と言うことも少なく、職員室はいつも同じようにほんわりとした空気が漂っていました。

友の詠んだ「夜学灯に教師同年暖かし」という句を時折思い出す今日このごろです。



▲昭和39年 授業風景

担任の先生と共に学んだ定時制

昭和四十二年卒業生 池上 徹
私は、第二十期生（昭和四十三年三月卒業）である。

昭和三十六年三月に千葉県の銚南一中を卒業と同時に上京し、東京日本橋の「テーラー稲毛」に住み込みで洋服の仕立て職人の見習いとして就職した。両親は当時の家庭状況や私の手先の器用な点を考慮し、これからは手に職をつけ、衣・食・住に関する職に就かせたいという強い要望を持っていた。しかし、私の辛抱や努力が足りず一年余りで辞めてしまった。その後、従姉の紹介で文京区の向丘高校近くの町工場に再就職した。そこでは職場の仲間の数人が仕事を終えた後に定時制高校で学んでいた。私も従姉に勧められ三年遅れで普通科に入学した。

ここでお会いしたのが担任の北原保雄先生である。先生は、私たちと同様に昼間大学院（元茗荷谷の東京教育大学、現在の筑波大学）で語学を学び夜は向丘高校定時制で教鞭をとられていた。先生は大変な努力家で、自身はもろんのこと教えるにも大変厳しく、仲間が週刊誌や漫画本を目にしていると「若いうちは時間が大切だよ。暇があったら勉強しなさい」と口癖のように指導されていた。その先生はりっぱに出世なさり筑波大学の教授から学長を二期六年なさり、数年前に退官なされた。今でもクラス会には必ず出席されて昔話に花を添えて下さる優しい先生である。又ご存じの方も多いことと思うが多くのベストセラーもお書きになられている。

向丘高校定時制で貴重な青春時代先生にめぐり会い、ご指導いただき改めて心より感謝申し上げます。クラス仲間の生涯の財産である。



▲昭和42年 給食



▲昭和42年 運動会

都立向丘高等学校 定時制課程の閉課程に寄せて

私は、平成十七年三月の卒業生です。入学した時は年齢が五十九歳だったので、不安な面もありました。しかし、高校生活は長いようで短い四年間でした。勉強は、どの教科も新鮮で学ぶことに生きがいを感じ嬉しさでいっぱいでした。遠足へ行ったりスポーツ大会もあり、盛りだくさんでした。修学旅行は三泊四日の沖縄でした。沖縄は青い海、独特な文化、基地問題にも触れ忘れることができませんでした。また、体育の尾崎先生に「最近歩くのが遅くなった」と話しました。ところ足の親指に力を入れて歩くと速く歩けるようになりますと、教えていただきました。早速実行してみると、早く歩けるようになります。

平成十六年度卒業生 寺田 節子

した。歩きたびに感謝しております。

また、養護の野沢先生に、歯の磨き方を教えていただきました。磨く時は磨き粉を使わないか、つけても少なくする、そうするときれいに磨けます。歯磨き粉をつけると、泡が出て気持ちよくなりすすぎりして丁寧な磨かなくなるからといわれました。現在も実践しておりますが、虫歯になりにくく、最近歯医者にあまりかからなくなりました。勉強することだけにとどまらず、健康面にもわたって教えていただきました。そういう学校が閉じてしまうことは、残念に思います。少子高齢化に伴い致し方ないと思いました。

現在は、東洋大学 社会学部社会学科に在籍して三年になりました。これも向丘高校で四年間学ばせていただいたおかげだと思っております。社会学部で犯罪心理学の勉強をしておりますが、少年犯罪心理学の分野で以下のような文章があります。「子育ての段階で少ない子どもにも高い教育をかける時代になりました。特に早期教育や『お受験』が過激化するにつけ、それにまつわる幼児虐待も耳にします。子どもがゆったりと過ごすべく乳幼児期に、一日英語のテープを流したり、あるいは早期教育の教室を連れ回す。これも虐待といえないことも無いのですが、さらに母親が成果を求めようになれば、十分期待に応えられない子は、母親から拒否的に扱われかねないのです。」(殺意をえがく子どもたち 大人への警告より 著者 三沢直子 学陽書房より)

昔は子どもは外で暗くなるまで遊びました。お腹がすくので帰っていくのです。今は遊ばせないのです。また、友達も遊んでいません。遊ぶ時に十分遊ばせず勉強ばかりさせるので、小さい時にけんかをしたりふざけたりしないで育ち、心が成長しきれいていないのです。心が安まる暇が無いのです。小さい時から親の勝手でし烈な戦いに追いやっています。たっぷり育てる時は育てていいのです。子どもは必要になればやると思います。子によって成長度は違えども親の方があせらずいらいらしないでじっくり待つことが肝心だと思います。

私も子育てをもう一度やり直すことができるならば、やり直したいと思います。今、後悔することばかりです。これからも高校の教えを無駄にすることなく勉強して社会に役立てていく所存です。本当に向丘高校の校長先生を筆頭に誉れ高い先生方に感謝しております。ありがとうございました。

定時制課程の閉課程を迎えるにあたって

開校から数えて六十年、開校当時は就労学生のために幕を開けた定時制も、時代の流れとともに学校のあり方が大きく変わっていきました。

就労学生以外にも、かつて高校で学べなかった高齢者の方や不登校の悩みを抱えた生徒たちを受け入れてくれる学校として大きく表情を変えてきたように思います。

我が家の息子も数年前本校を卒業いたしました。本校に入学するまでは中学での不登校を体験し、息子も長い間苦悶の時間を過ごしていました。

学校に行きたい、友達が欲しい、皆と同じように学校生活を送りたい。でも学校に行けない、行けなかった子供たちに定時制高校は門戸を開き彼らの「居場所」をつくってくれました。

授業はもちろんのこと、クラブ活動、修学旅行、再び始まった全定合同の文化祭等、先生と生徒自分たちの力で学校生活を築いてきたことはすばらしい思い出になったと思います。

入学当初の不安げな表情が卒業するころには生き生きとした表情に変わり、アットホームな卒業式では何度も目頭が熱くなる思いをしました。

私たち親同士もPTA活動を通じ初めて心を開いて本音で話をする

ことができた気がします。子どもたちだけではなく、私たち親にとっても向丘の定時制は心休まる「居場所」でした。

生徒一人ひとりの個性を受け入れ、生徒を信じ、暖かく見守って指導してくださった先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

向丘の定時制の灯が消えることは残念で惜別の念に耐えませんが、生徒たちにとってこの学校で学んだことは生涯忘れられない貴重な財産になると思います。

末筆ながら本校の教職員の皆様、並びに卒業生の皆様の今後のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

閉課程を迎えるに寄せて

本校教諭 小沼 克己

五年前、赴任してすぐに本校定時制課程が平成二十年三月に閉課程を迎えることを知りました。まだ先のことだし、あまりピンとこなかったことを記憶しています。

それどころか、定時制高校の教壇に立つことは始めての経験でしたので、とても緊張していた気がします。

そして、幸いにも？赴任二年目にして、本課程最後の入学生を担任として迎え入れることができました。年齢や思いは異なれど、同じ学舎で出逢った生徒どうし、仲間意識だけでも持たせられる様なホームルームをめざしてきました。

しかし、四年間を共に歩んでくると、生徒たちが社会での勤労体験、授業や向陵祭、修学旅行などの学習活動や集団生活を通して一人の社会人として力強く成長していく姿を目の当たりにし、当初の思いはいい意味で裏切られ、教師冥利に尽きる思いです。

五年間の定時制高校教師生活ではありますが、学習と勤労を両立す

る生徒、生徒会活動に精を出す生徒、省エネ登校で単位を修得する生徒、様々な生徒と学校生活を共にする中において、彼らの四年間という貴重な歳月を預かる定時制高校の担う役割の重要性を改めて実感しています。

本校定時制課程が六十年の歴史に幕を閉じるのは大変寂しいことではありますが、在校生は東京都立向丘高等学校定時制課程最後の卒業生としての誇りと、学舎で培った友情を胸に社会において広く活躍してくれることと思います。



▲平成19年 在校生および教員